





## ― 特　集 ―

# その人らしい暮らしを支える

障がいのある方が地域で安心して暮らし続けるためには、福祉サービスを支える人々の力が欠かせません。

障がいのある方を支える仕事は多様にありますが、その中で身近な相談相手や同じ経験を持つ「仲間」の存在は大きな支えとなります。こうした役割で地域を支えているのが、福祉サービスの利用や生活上の相談に寄り添い、必要な支援へつなぐ役割を担う「相談支援専門員」と、自らも当事者としての経験を持ち、その経験を活かして同じ立場にある人を支援する「ピアスタッフ」です。

それぞれの立場から「支援者としての想い」や「支援を通じて感じるやりがい」についてお話をお伺いしました。今回の特集では、地域共生社会の実現に向けて活躍するお二人の声をご紹介します。

**問合せ**　障がい福祉課(内線2615)









# 悩みに寄り添い、一緒にこれからを考える


夢工房「相談支援専門員」 大﨑さん

## 相談支援専門員になったきっかけは？

新卒で入職後、採用業務や高齢者福祉の事務職を経験し、その後、就労移行支援の支援員として障がいのある方の就職に向けた訓練や就職活動のサポートなどに携わってきました。それまで自分にとって遠い存在だった障がい福祉の分野で、戸惑いながらも利用者との関わりを通して、多くのことを学び、経験を重ねてきました。そうした日々の中で、地域課題として福祉サービス利用時に、相談支援専門員を介さず、本人や家族が利用計画を作成する「セルフプラン」の方がいること、同時に相談支援専門員という職種が不足していることを知りました。本人や家族が相談支援専門員とつながることで、暮らしや将来への不安を少しでも軽くできるのではないかと考え、また、地域のために新たにできることはないかという思いも重なり、相談支援専門員になりました。

## どのような支援をしていますか？

障がいのある方や家族からお話を伺い、本人が希望する生活を実現するために、どのような支援が必要かを一緒に考えています。具体的には、生活上の困りごとや希望を聞き取り、福祉サービスを利用するための計画を作成します。サービスの利用が始まった後も定期的に本人の様子を確認し、必要に応じて、関係する事業所などと連携しながら支援しています。

また、障がいのある方からは、福祉サービスだけでなく、さまざまな相談が寄せられることから、自分にできることはなるべく応えたいと思っています。

## 支援する中で大切にしていることは？

自分の考えや思いを一方的に伝えるのではなく、まずは本人の話を丁寧に聞くことを大切にしています。必ずしも支援する側が必要だと思うことと、本人が望んでいることが同じとは限りません。本人の思いや意見を尊重し、さまざまな立場からの意見も踏まえて支援するよう心掛けています。

また、一人ひとりに合った支援をしていくためには、周囲との連携も欠かせません。今年度から複数の事業所による一体的な管理運営を始めたことで、他の相談支援事業所との連携や情報共有がしやすくなりました。障がいのある方の生活は、日中の活動だけでなく、住まいや健康、家族との関わりなど、さまざまな要素が関係しています。事業所同士がチームとなり、密に連絡を取り合うことで、利用者の生活全体を見据えた支援につなげることも大切にしています。

## 市民の皆さんにメッセージ

障がいのある方も、そうでない方も、誰もが地域の中で自分らしく暮らしていけることを望んでいるのではないでしょうか。障がい福祉というと、少し難しく感じたり、自分には関係のないことだと思う方もいるかもしれません。しかし、誰もが生活の中で困ったり、誰かの支えを必要とすることがあります。私自身も、支援する立場でありながら、周囲の方々に支えられていると日々感じています。

困ったときに相談できる場所があることや地域にはさまざまな人を支える仕組みがあることを、少しでも知っていただけたら嬉しいです。


夢工房翔裕園 職員の皆さん

## 夢工房翔裕園（ゆめこうぼうしょうゆうえん）

【所在地：鴻巣市下谷 41】

夢工房翔裕園では、相談支援事業と就労継続支援 B 型を運営しています。

相談支援事業を通じて、福祉サービスの利用に関する相談に応じるほか、就労継続支援 B 型では、障がいのある方の働く機会や生産活動の場を提供しています。

# 経験を力に、ともに歩む

## ピアスタッフになったきっかけは？

17歳の時に統合失調症と診断され、その後、入退院を繰り返す時期がありました。人とのつながりも少ない生活が続いていましたが、地域の保健所に相談したことをきっかけに地域活動支援センターを紹介してもらいました。

そこで、自分と同じような経験を持つ人たちが参加するバレーボールチームを紹介してもらい、仲間と出会ったことが大きな転機になりました。初めて参加した時に「またおいで」と声をかけてもらい、「ここにいていいんだ」と思えたことを今でも覚えています。安心できる居場所や仲間ができたことで、少しずつ色々なことに挑戦できるようになりました。

その後、バレーボールを通じたつながりから、ピアスタッフの集まりに参加したことが活動を始めるきっかけでした。

## 支援する中で大切にしていることは？

まずは、相手の話をしっかり聞くことを大切にしています。同じような経験があるからこそ、自分のことを話し過ぎたり、自分の経験を押し付けたりしないように心掛けています。

また、一人ひとりの価値観や考え方を否定せず、その人のペースに寄り添うことも大切にしています。

支援する側として前から引っ張るのではなく、「伴走者」として一緒に立ち止まったり、遠回りしながら、その人のペースで歩んでいきたいと考えています。

## ピアスタッフだからこそできることは？

同じ経験でなくても、似たような経験や苦しさを知っていることで「この人ならわかってくれるかもしれない」と感じてもらえることがあります。私自身も相談することへの不安を経験してきたからこそ、安心して思いを話せる存在でありたいと考えています。

以前は、自分の精神障がいの経験はネガティブなものだと感じていました。でも今は、それを乗り越えてきた経験が誰かの役に立つことを、ありがたく感じています。

## 市民の皆さんにメッセージ

障がいのある方に対して、まだ偏見や差別があると感じることがあります。障がいがあることで、その人自身を見る前に、イメージだけで捉えられてしまうこともあると思います。

まずは、障がいの有無だけで捉えるのではなく、その人自身を知ってもらうことが大切だと考えています。

ピアサポートは、「支援する側」「受ける側」という一方的な関係ではなく、お互いに支え合うことだと思っています。誰かを支えることもあれば、自分が支えられることもある。そうした関係は、障がいの有無に関わらず、誰にでもあるものだと思います。

お互いを一人の人として知り、それぞれができることで助け合える、そんな関係が少しずつ地域の中に広がってくれたら嬉しいです。



夢の実「ピアスタッフ」　髙橋さん

## 生活支援センター 夢の実（ゆめみ）

【所在地：エルミこうのす（エルミ2）4階】

夢の実では、相談支援事業と地域活動支援センターを運営しています。相談支援事業を通じて、さまざまな相談に応じるほか、地域活動支援センターでは、利用者さんの「やってみたい」という思いを大切に、多様なプログラムや交流活動を行っています。



生活支援センター 夢の実 職員の皆さん

# 障がいのある方の現状

身体障がい者の人数はやや減少傾向であるものの、知的障がい者と精神障がい者の人数は増加傾向となっており、障害者手帳の所持者数は大幅に増加しています。これに加え、高次脳機能障害※、医療的ケア※が必要な方など、障がいの特性に応じて適切な支援を行うことが求められており、多様な福祉サービスを支える人材確保の重要性が高まっています。




| | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 | 令和7年 | 令和8年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 身体障がい者 | 3,289 | 3,282 | 3,244 | 3,223 | 3,210 |
| 知的障がい者 | 875 | 896 | 944 | 987 | 1,016 |
| 精神障がい者 | 1,183 | 1,298 | 1,382 | 1,482 | 1,617 |
| 合　　計 | 5,347 | 5,476 | 5,570 | 5,692 | 5,843 |

### ※高次脳機能障害

事故や疾病などで脳に損傷を受けた後に、記憶力や注意力の低下などの症状が現れ、日常生活や社会生活に支障が出る障がいです。症状が外見からわかりにくく、本人に自覚がないことも多いため「見えない障がい」と言われることがあります。

### ※医療的ケア

日常生活を送るために、人工呼吸器による呼吸管理、喀痰（かくたん）吸引など継続的に必要となる医療行為を指します。

## 「障害者週間」をきっかけとして

福祉サービスの現場では、人材不足が深刻化しています。必要な支援を地域でこれからも続けていくためには、支援を担う人材を確保し、地域全体で「支える力」を育んでいくことが必要です。

今回の特集では、「相談支援専門員」、「ピアスタッフ」のそれぞれの立場から支援に携わる二人の想いを紹介しました。お二人の言葉からは、「障がいのある方の力になりたい」という想いや、人と人とのつながりが生み出す支援の力を感じることができました。

12月3日～9日は「障害者週間」で、障がいのある方の社会参加と周囲の理解を深める期間です。この機会に、障がいの理解を深めるとともに、地域で活躍する支援者の存在や障がい福祉の仕事の魅力に目を向けてみませんか。一人ひとりの関心や理解が、「支援の輪」を広げ、誰もが安心して暮らせる地域共生社会につながっていきます。



